

西舞鶴の市場、スーパーマーケット

「さとうグループ」の概要(ホームページより)

北近畿最大の総合流通企業

本部は福知山市

連結売上高 913 億円(平成 29 年 2 月期)

人口減であっても年々売上を伸ばしている

古い GMS の中のスーパーマーケット 売場面積は 300 坪ほど

駅の反対側には同じグループの大型ホームセンターがある

コモディティ商品中心の無難な品揃え



買い物に行った日は「7月25日 丑の日」

店頭冷蔵平ケースではウナギを販売

肉はアウトパック 魚、惣菜はインスタア

6時過ぎであるため鮮魚や惣菜は値引き商品がある

「うなぎごはん」「ソーメン」「カツオ刺身」「土用餅」「バナナ」「ドリップコーヒー」「パン」「水」を購入

特に水は2069円と安かった

トータル 1548円



今日の「土用の丑のメニュー」

うな重も考えたが、せっかくだからいろいろと食べてみたかった

どれも京都らしい薄味の味付け

翌 26 日は、駅前からバスに乗って

「舞鶴港とれとれセンター」

観光客用の魚市場だ



左奥に見えるのは「業務スーパー」

隣には「道の駅」

3 業態が共存している

2 階のカフェは閉鎖中



午前中は店頭で野菜が売られている

入口を入れば最初に乾物売場



奥の通路が魚売場

夏であるため、名物の蟹が少ない
魚種も少ない



名物の「焼きさば」

トレーに盛られたバーベキューセット
注文すれば焼いてくれる



いい値段だ
ちょっと手が出ない



食堂の海鮮丼

だいたい味の想像はつくため食べるのをやめた

隣の「生鮮&業務スーパー」へ
売場面積は300坪ほど
よく客が入っている



生鮮 3 品、惣菜を壁面に配置したスーパーマーケット+業務スーパーのビジネスモデルだ
業務スーパーでありながら生鮮、惣菜が強いのが特徴
店の中心は冷凍食品とドライ食品だが NB 商品は少ない

できたての「木の葉丼」258 円(税抜き)



天然鯛の煮つけ 298 円

2 品でちょうど 600 円

海鮮丼の半額だが、こちらのほうが価値がある

港が見えるベンチでいただく



港にはフェリーが停泊

時々、今はやりの大型クルーズ船も立ち寄らしい

少し道を進めば「にしがき」の看板が見えてくる

にしがきの概要(ホームページより)

事業内容は、食費事業、リゾート事業、介護事業、損保業務

年商 158 億円(平成25年実績)

本社は京都府京丹後市



店の隣に「かまどや」とクリーニングを併設

店は、惣菜と食品、日配を強化した店

惣菜売場では、揚物、弁当、寿司、おかず類が山積み

昼にはよく客が入っている

惣菜センター製造の「ロングライフチルドの袋惣菜」を販売

縦割りでチルド売場にコーナー化されている

購入商品 トータル 3219 円

580 円の梅ようかんといちじくようかんはお土産用



イワシちくわ

ちくわの穴は大きいのが、イワシの味はしっかりする

ちくわ本来の硬めの食感で、煮込むとしっかりダシが出そう

「いちじく羊羹」「梅羊羹」

福井県大飯群のメーカーだが、珍しいのでお土産として購入



自社工場製造の袋惣菜「とりごぼう」と「肉じゃが」
薄味で家庭でつくったような味付け
低温調理なので、野菜の食感もいい



同じ「牛すじの煮込み」「甘酢肉団子」各1袋 580円
「牛スジ」は在庫から見てよく売れているようだ

牛スジ煮、肉団子は東京に持ち帰る

250g 入って 580円は安い

牛スジは半分はごはんのおかず、半分は牛スジうどんを食べる

味付けは、関西の「肉うどん」の肉の味付けと同じで甘め



肉だんごは、8個入

添加物をあまり使っていないため、中華料理屋の味と同じ

チルドの「茶碗蒸しセット」

これも惣菜センター製造 2人前も品揃えしている

この辺は茶碗蒸しやだし巻き卵をよく食べる地域



サバのほぐしが入った「五目いなり」

センター商品だが、サバのほぐし身など、具もたっぷり入っていて、100円は安い
はじめて食べたがおいしい

地域のこうした昔ながらの商品を食べられることは有難い
惣菜を差別化部門にしているが店内製造は揚物くらいである
スタッフ1名で作業

がんばれローカルスーパー

舞鶴市の人口は、82,557人(2017年5月1日現在)

ピーク時には15万人を超えていたが、人口減が続く過疎地

人口8万人の中での商売はなかなか難しいが、地域住民のライフラインの確保、食文化の継承のためにも頑張ってもらいたい

西舞鶴の「バザール・タウン」と「フクヤ」

西舞鶴駅からすぐの、さとう「バザール・タウン」

さとうはGMSとホームセンターを駅の両側に展開



L字型の建物で広い駐車場を確保

店内レイアウト

食品ゾーン、雑貨、衣料ゾーン、ホームセンターゾーンに分かれた3000坪ほどの大型店
よく客が入っている



購入商品 トータル 2619 円(税込み)

時間をかけて店を見ているうちにつつい買い過ぎてしまう

「サバへしこ刺身用」 1 パック 489 円(税込み 以下略)

舞鶴の名物商品のへしこは縦割りでコーナー化されている



「吉田京都 九条ねぎ」 1 パック 105 円

九条ねぎは魅力的だ 価格も値ごろ

「へしこ茶漬け」をつくる

電子レンジで温めた惣菜のごはん(137 円)に、へしこ、九条ねぎを載せ、めんつゆをかける

へしこの塩分は高いが、お茶漬けだと食べやすい



「半田舎そば」 170g 1 袋 101 円

太めで色が黒いのが、この地域のそばの特徴



「ざるつけつゆ」 2人前 1袋 105円

「野菜かきあげ」 2枚 210円

惣菜売場で売られている商品



野菜かきあげ、九条ねぎをトッピングしめんつゆを上からかけて、「ぶっかけそば」をつくる
そばはかなり弾力があり食べごたえがある

「豚肉味付けトンテキ」 1枚 270円

豚ロース肉の味付け

加熱済みと勘違いして買ってしまった



フライパンがないため、鍋に水を入れて、低温でボイル
時間をかけたためボイルしたため、柔らかくできた
味もちょうどよかった

「カットフルーツ小」 1 パック 321 円

パイナップル、オレンジ、ハネージュメロンの3点盛り

フルーツはカットフルーツの時代



「彩りミックスサラダ」 1 パック 170 円

レタスの相場が安いいため、価格は値ごろ

「クロワッサン タイ焼き」 1 枚 170 円

クロワッサン生地で焼いた「タイ焼き」

新食感、新しい味の提案



そのほか、ばくだんおむすび(213円)、甘辛ごぼう(213円)、生わさびチューブ(90円)、ごまドレッシング(25円)

惣菜売場のスープウオーマーの温かい「ぜんざい」や「水餃子」も印象的

アーケード街近くにあるフクヤ

駅から歩いて旧商店街の近くにある 300 坪ほどの店

大通りから外れているため、地元客が殆ど

入口には「地元農産物コーナー」もある



フクヤの概要(ホームページより)

事業内容 スーパーマーケット・チェーン 「とくし丸」

本社 京都府宮津市鶴賀

店舗数 9 店(内舞鶴市 5 店舗)

加盟団体 オール日本スーパーマーケット協会(AJS)

購入商品 2284 円+税 182 円=2466 円

店のスタッフに舞鶴の名物商品を聞く



「舞鶴産 万願寺 甘とう」1 袋 98 円

「ふじっ子 塩こんぶ」1 袋 188 円

「万願寺甘とう」は地理的表示(GI)保護制度に登録された

青果売場の女性スタッフに食べ方を聞くと、

「輪切りにして、塩こんぶと炒めたり、焼くとおいしい」と親切に教えてくれた

後でそのままかじってみると、辛くない唐辛子 味はピーマンに近い

イワシちくわと食べるとよく合う

「まくわうり」1個 150円

生産者コーナーの商品を切って、皮まで剥いてくれた
感謝

甘味は少ないが、昔なつかしい味



「鳩七 蒲鉾」210g 1本 465円

これもおすすめ品

地元舞鶴市でつくられている蒲鉾

原材料 魚肉(グチ、すけそうダラ)、卵白

「みょうがご飯」1パック 298円(Fクック)

みょうが、揚げ、ちりめん、みつばが入ったみょうがごはん

おかずは、たまご焼きと焼さば

センター商品だが、手が込んでいる

初めて味わた ひょうがの香りとシャキシャキ感がいい

みょうがは生ではなく、酢漬けのようだ



「万願寺 甘とうの煮つけ」221円 -66円

値引きはしてあるが、最後の1パック

天然調味料を使って店内で煮ているようだ

どこか懐かしい味 子供のころおふくろがよく作ってくれた

当時はたまに、辛いものがあり、文句をいった記憶がある

「昆布巻」1本 168円

天然調味料のみを使用し、薄味で柔らかく煮てある

これもおいしい

昆布製品も舞鶴の名物



「井筒八つ橋本舗 つぶあん入り生八つ橋」1パック 180円

「アカモク」3袋入り 1パック 298円

山口県産 アカモク使用

ザルそばと一緒に食べるとおいしい



「フルーツソース」各1パック 98円

チアシード入り ストロベリー ブルーベリー ヨーグルト売場の関連商品

人情がある地元企業

この店にはふるさとの懐かしさが残っている

「万願寺甘とう、どやって料理するの？」と聞くと

「えー 知らないの〜」(それだけ地元客が多いというこ)

「ええ 旅行者ですから」と答えれば、親切に料理の仕方を教えてくれた

「まくわうり」を買って、「ホテルで食べるから、半分に割って」というと、裏に持って行き、四つ割にして皮まで剥いてくれた さらに、「おいしいまくわうりはね〜、頭の部分にシワあるもの」と教えてくれた ここでも感謝 こんな人情がいい

惣菜は、揚物と煮物は店内製造のようだ

生産が持ち込む惣菜があれば、もっとおもしろくなると思う

こんな国内のスーパーマーケットめぐりもいいな がんばれローカルスーパー！

ユネスコ世界記憶遺産「舞鶴引揚記念館」へ向かう

奈良～京都～西舞鶴へと移動



舞鶴の「引揚記念館」へ行くとしたら、知り合いが「これは読んでおかないと」と薦めくれた本
教養のある人は、普段から何冊も本を読んでいるため、すぐに題名と名前がこぼれるように出てく
る 一冊だけ読んで大騒ぎしている私とは違う

藤原てい著「流れる星は生きている」中央公論新社

ご存知の方もいると思うが「新田次郎」氏の妻

二人とも長野県諏訪市の出身

「追悼」と書かれた文字、昨年亡くなった

3人の子供を連れ、中国東北部「新京(長春)」から「博多港」へ引き揚げの様子をドキュメント

電車は西舞鶴駅に到着



あまり交通手段を調べていなかったため、タクシーで「引揚記念館」へと向かう

なんと、約 5000 円もかかってしまった 舞鶴市は意外と大きい

電車で東舞鶴まで移動して、そこからバスに乗ったほうが安上がり



舞鶴の観光案内図

ユネスコ世界記憶遺産に登録された



館内の様子

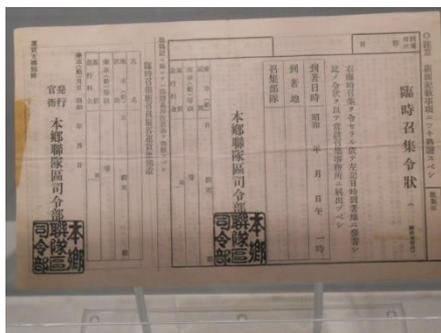


記念館入口

ここは、一部を除き写真撮影 OK

ボランティアの「語り手」が付いてくれる

伊那谷出身で、長野県阿智村の「満蒙開拓記念館」や岐阜県八百津町の「杉原千畝記念館」も見てきたことを話すと、1 時間半も熱心に説明してくれた



赤紙と呼ばれた「召集令状」の現物

歴史年表



1931年「満州事変勃発」 その下には、

「東北、北海道で冷害、大凶作」

「文部省 農村の欠食児童が20万人と発表」

「全国的な大寒波」

「満蒙開拓少年義勇軍、約10万人が中国東北部に移住」

ここに注目！

戦争はだれも望んでいないが、食料危機になればその危険性が高まる

同じ失敗は繰り返してはいけない

1830年代の「天保の飢饉」から100年後のこと

200年後の2030年に冷害、飢饉が訪れてもおかしくない

これから10年その準備をしなくてはならない

「引き揚げ開始」

「引揚第一船 雲仙丸 釜山から陸軍軍人2,100人を乗せて舞鶴(西港)へ入港」

軍人が一番先に逃げ出した

なさない話

私の父親も満州からの引揚軍人の一人であった



世界からの引揚者は660万人

引揚が終わるまで13年間もかかった

旧ソ連、中国からの引揚者は13年間で、約66万人

シベリア収容所のジオラマ



収容棟の内部

55000 人が現地で亡くなっている
上にいる人間はもう動けない人



左が軍人、右が一般人

白樺の皮に書かれた日記



収容所内の日本語新聞
赤化のプロパガンダが目的

引揚船

シベリアからの 3 隻の引揚船がソ連の潜水艦に攻撃され沈没した



よく見ると「宗谷」と書かれている
後の南極観測船 よく働いた船だ

舞鶴港

右側は引揚者のための宿泊施設



中国、シベリアからの引揚は、マッカーサーを中心にアメリカが中国、ソ連と交渉して実現したこと
敗戦国の日本政府の交渉だけでは実現は難しかった
これも事実として知っておかねばならない

「岸壁の母」



日本人捕虜が造ったウズベキスタン共和国の「ナヴォイ劇場」
大きな地震にも耐えた

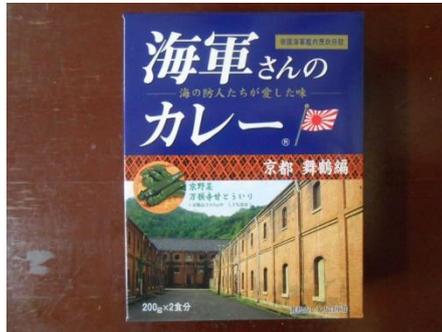


日本語とウズベキスタン語で書かれたプレート

館内のレストランで「海軍カレー」をいただく

日露戦争当時海軍で生まれたメニュー

似たメニューの「肉じゃが」は、舞鶴が発祥だとする説もある



おみやげに「京野菜 万願寺甘とういり」入りのレトルトカレーを購入

シベリア抑留者が可愛がっていたクロの物語

現在もクロの子孫が生きているらしい

これは、近いうちに映画化されると思う

ペットものは人気が高い



外は大雨であったため、栈橋には行けなかった

何度も言うが、「戦争は悪いことだと誰でも分かっている」

しかし、それでも起こる 原因を改善せねばまた起きる

その原因は、干ばつ、冷害による「食料不足」

「アラブの春」「シリアの内戦」も干ばつによる食料不足

動物でも食料が無くなれば、他の縄張りを荒らす

人間のこどもでも、お腹がすけば、隣の子の食べ物を取る

それは、生きるための動物の本能

「食料危機」に備え、私達は何ができるか？

私は、セミナーでよく「伊勢神宮の式年遷宮」の話を最初にします

米を保存するために、糶(ほしい 今でいうアルファ米)を作り、それを保存する「米倉」を建てかえるのが、式年遷宮の目的

その糶は 20 年も保存が可能であったという

米を非常時のために 20 年保存する、「製造技術」「包装技術」「保管技術」「伝承技術」を日本人は、1300 年前から持っていた 今ならもっとスゴイ技術があるはず

舞鶴「赤レンガ博物館」

バスに乗って「市役所前」で下車すれば目の前に見える

明治から大正にかけて、旧日本海軍が建築した「レンガ倉庫群」

12 棟の倉庫があり、うち 8 棟は国の「重要文化財」に指定されている



「レンガ博物館」

1903 年に旧舞鶴海軍が建設

2016 年 旧鎮守府、横須賀、呉、佐世保、舞鶴が日本遺産に認定された

1 階の展示場

「レンガ」は、土を使ってできる建築用資材

「日干しレンガ」「焼成レンガ」「耐火レンガ」などがある

古代エジプト、メソポタミア、ローマ、万里の長城のレンガなど世界中から集めて展示されている

よく集めてある

「レンガは全ての歴史を見ていた」と言わんばかりである



紀元前約1400年のエジプトのレンガ
ホフマン式レンガ製造所



舞鶴もホフマン式輪窯を採用

当時のホフマン窯内部を再現



簡単なレンガの作り方

いろいろなレンガが置かれている「歴史」と「建物」が学べる



2階の展示場

「日本のレンガの歩み」

レンガは、中国大陸、朝鮮半島から日本へ仏教建築の材料として伝わる
明治維新の「文明開化」以降数多くのレンガが使われた建築物が多い

軍港当時の舞鶴港



当時の舞鶴の軍艦

旧海軍舞鶴鎮守府の初代司令長官は「東郷平八郎」

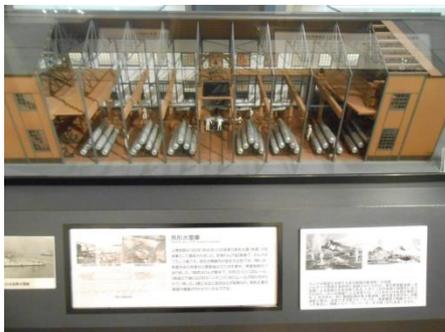
「三笠」のレプリカ

日清戦争当時の連合艦隊の旗艦

現在は横須賀市の三笠公園の保存されている



レンガ博物館の建物は、旧舞鶴海軍の「魚雷倉庫」として建設された



鉄骨とレンガを組み合わせで建築された堅固な建物

ナチス強制収容所「アウシュビッツ」のレンガ



原爆が投下された「広島原爆ドームのレンガ」「長崎浦上天主堂のレンガ」

レンガはすべての歴史を見ていた

裏山には旧海軍の堡壘が残されている



山全体が堅固な要塞であった

港には海上自衛隊の「ヘリコプターキャリア(ヘリ空母)」「護衛艦2隻」「輸送艦」が繋留されている



7月29日 日曜日「海上自衛隊フェスタ」があるとうことで、港が市民に開放され、軍艦にも乗船できるらしい

別に戦艦マニアではないが いい機会なので行こうと思っている

土日、祭日には遊覧船も出るということで、1日延泊する

歩いて「舞鶴市政記念館」へ向かう



1階がレストラン、2階が展示室になっている

2階の展示室



なにやら長い「竹竿」のようなものが

「大江季雄氏」の肖像画

だれ？



「友情のメダル」

1936年(昭和11年)の「ベルリンオリンピック」の棒高跳びで、西田修平と2位、3位を分け合い、帰国後にお互いのメダルを切断して分け合ったという美談
そういえば、小学校の教科書に載ってたな

展示されているレプリカは、見やすいようデカイ



表



表



裏

裏

偶然だがいいものを見た

1階のレストラン



メニューは「海軍カレー」と「肉じゃが丼」

海軍カレーは「引揚記念館」でいただいたため、舞鶴発祥であるといわれている「肉じゃが丼」を注文

「海軍肉じゃが丼」が出てきた



何かおかしい

スーパーで売られている惣菜の「肉じゃが」を想像していたが、これは少し違う

これは、「牛丼のジャガイモ添え」だ！

ジャガイモに味がしみ込んでいない

たまねぎ、しらたき、グリーンピース、紅ショウガはあるが、人参がない

これが「海軍」でつくられていたオリジナル「海軍肉じゃが丼」なのか？

軍艦カレーはレトルト商品であることは想像できる

これは、たぶん牛丼の具を使ってじゃがいもをトッピングしているのでは？

「牛丼の具」と「肉じゃが」は違う

「理屈を言わずに黙って食べ！」と言われそうだが、

残念！

12棟もレンガ倉庫があるため、そこを「道の駅」のような地域の特産品を売る施設や、舞鶴の食文化を伝えるフードコートもあっていいな

海外の倉庫型商業施設のように、これから倉庫がおもしろい

7月29日(土)「海上自衛隊 舞鶴地方隊 サマーフェスタ」に偶然出くわした

国民に自衛隊の活動を理解してもらうのが目的のようだ

前日は稲田防衛大臣の辞任、夜には北のミサイル発射のニュース

他人事とっていてはいられない

10時30分に遊覧船の整理券を取りに行く

11時に乗船し舞鶴湾内を遊覧 乗船券は1000円



船は 90 人乗りだが満席
ガイドが付いて説明してくれる

ヘリコプターキャリアー(ヘリ空母)1隻、護衛艦2隻、輸送艦1隻が停泊
手前は輸送艦



奥に見えるのは「舞鶴クレーンブリッジ」
その橋の右側は「引揚棧橋」と「引揚記念館」がある
別ルートだと引揚棧橋を海上から見られる

繫留されているタンカー

ガイドによると、「積荷は空の状態、積荷を満載すれば、赤い部分が殆ど見えなくなるほど沈むらしい」



輸送艦

ガイドの話によると、船の沈み具合から満載状態であるという
確かに有事の際に荷物を積んでいたら間に合わない

ヘリコプターキャリアー(ヘリ空母) がかい



すぐ脇を通る

今日は希望すれば自衛隊のボートにも乗ることができる



上陸して港へはバスで移動

陸上自衛隊も武器を展示
迎撃ミサイル



武器マニアではないのでそこそこに
職業柄ここは時間をかけて説明を聞く

「野外炊具 1号」

概要: 「野外における炊事を目的で作られたものであり、炊飯、汁物、煮物、揚物、焼き物、炒め物、蒸し物が可能」

性能: 「最大役 200 人分の主食、副食等の同時調理ができ、11.5kgの米を約 25 分で炊飯。35 リットルの水を約 30 分で沸騰」

主要諸元: 「発熱量約39kw(15000Kcal) 野菜調理機(スライサー)、球根皮剥機」



手前の2槽が加熱用調理器具
 容量は各20リットルほど
 左下が野菜皮剥機、右は発電機
 奥の4槽が炊飯器



左が発電機、中央が野菜スライサー
 蒸し器がないため、炊飯器を蒸し器に使っているのではないが
 「生食」以外の5法の調理ができる装備になっている
 野菜は保存の効く、じゃがいも、人参、玉ねぎを使った「カレー」「シチュー」「牛丼」「肉じゃが」などの煮込み料理がメニューの中心であることが理解できる

護衛艦の装備

対潜水艦魚雷発射管



近くの潜水艦を狙うもの
 「アスロックランチャー」(1隻は古いタイプ)
 後方にロケットがついており、遠くの潜水艦を狙う



2方向しか発射できないのが難点

最近甲板上に設置され 360度狙える(写真左上)

垂直発射機はイージス艦に装備されている

護衛艦でありながら明治の大砲みたいなものはない

ミサイルの時代



ここで記念撮影

おや?

足の長さの比較かな



二人の口をよく見ると、私は「あ」、自衛官は「ん」

「あうんの呼吸か」

ヘリコプターキャリアー「ひゅうが」に乗ってみる

これは「護衛艦」になっている

自衛隊は国防が目的であるため、空母を持つことはできない



軍用ヘリが7機搭載可能だという

最高機密であるため、保管庫は空

巨大エレベーターで甲板に向かう



広い甲板には何も無い

床はザラザラして滑らないようになっている



壁を叩いてみると厚さが分かる

扉も嚴重だ



鋼材を変えて潮風でも錆びないようにしている

下船

気温38℃、暑すぎてもう動く気にならない

屋台エリアで「ホルモンうどん500円」を買ってテントの下で食べる



キムチ味の焼きうどん
自衛隊 PB の水を買って帰る



これで「八百津町、舞鶴、敦賀」の見聞録は終わり
テーマは「戦争と平和」「日本(人)が関係した日本史」
「ローカルスーパー、市場の視察、商品の研究」もできた
主に海外でやっていることだが、7月は終戦記念日を控え、国内
をなるべく回ろうと思っている
「歴史を勉強して、その土地の名物料理を食べる」のは楽しい
来年は「広島、呉」かな
上海の「ユダヤ人難民記念館」も行く予定

岐阜県八百津町の「杉原千畝記念館」

舞鶴、敦賀の前に訪れた場所

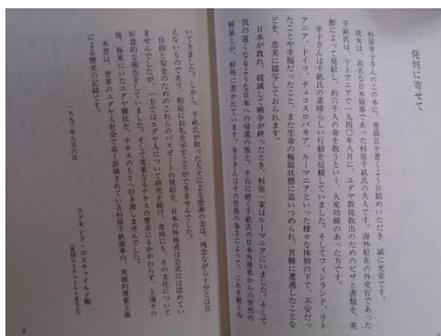
ユネスコ世界記憶遺産に登録されました

毎年7月は、わたしのライフワーク「戦争と平和について考える」「日本が関係した世界史」をテーマにして国内外を歩いている

今回のテーマは、日本のシンドラー「杉原千畝」と「引揚者」

まずは、本を読んで予習しておく

「六千人の命のビザ」 杉原幸子(千畝の妻)著 大正出版



本の最初の「発刊に寄せて」は、英国ロスチャイルド家の「エドモンド・ロスチルド」のことは、これは、

杉原千畝は、どの時期に何をしたか整理しておく必要がある

日本の「河豚(ふぐ)計画(上海にユダヤ人居住区をつくる計画)」と杉原千畝の行動

年表

1931年9月 柳条湖事件発生 満州事変勃発

1932年3月 満州国建国

1934年8月 ヒトラー ドイツ総督就任

1938年1月 「河豚(ふぐ)計画」 外務省「回教および猶太(ユダヤ)問題委員会設置」

1939年6月 ベルリン満州国書記官 王替夫、ユダヤ難民らにビザ発給(12000通以上)

1939年9月 ドイツ軍 ポーランドに侵攻 第二次世界大戦勃発

1940年7月 リトアニア領事代理「杉原千畝」ユダヤ人らへ日本通過ビザ発給 およそ6000人救う

1940年8月 ソ連、リトアニアを併合

1940年9月 「日独伊三国軍事同盟」締結

1941年8月 ユダヤ難民 上海移住開始

1941年12月 日本軍、英米に宣戦布告 太平洋戦争勃発

1942年3月 「猶太人対策要綱」の廃止

杉原千畝の単独行動は、まったく日本政府の方針に反したものではなかった
外務省の許可なしに通過ビザを発行したが、何のお咎めもなく、7年間

ヨーロッパで外交官として活動

帰国後、解雇されたが、それは外務省のリストラの一環であったという人もいる
杉原千畝の名誉回復に尽力したのは、当時、外務政務次官であった
「鈴木宗男」氏であったことも忘れてはならない

中央道名古屋方面「恵那」で降りる

伊那の自宅から1時間、さらに1時間走る



天竜川を渡る

千枚田(棚田)が見えてくる



千畝の名前の由来は、千枚田の畦(あぜ)が、千の畝(盛り上げられた土)に見えることから、この名前がつけられたといわれている

林道を行くと「八百津町」の看板が見えてくる



過疎化が進み閉店した商店

1時間走ってもスーパーらしき店は一件もない

「杉原千畝記念館」に到着



杉原千畝の母の出身地が八百津町

千畝はここで生まれているが、父は税務署職員であったため、各地を転々とする

館内は撮影禁止

人の顔が映った写真は肖像権があるからだ

予想通り、「ホロコースト」など宗教色が少し強い感じのする記念館だ



当時の出務室が再現されている

椅子に座り、ここで写真を一枚

記念のビザに捺印



説明ビデオを見るが、映画のように「命のリレー」に登場する人物の説明が少ない

これは残念

「人道の丘」入口



胸像 奥が記念館

人道の丘のセラミックオルガン



音楽が終われば噴水になる
少し坂を下れば平和のモニュメント



丘から見る八百津町の景色
「シュバイツァーの像」



「ナイチンゲールの像」

なんでも建てればいいというものではない

そうであれば「アンネフランクの像」も欲しかった

近くのレストランで昼食



「ダムカレー」を注文

近くには丸山ダムがある ダムを形どった二重のごはん

中心には放水口を形どった食パン



ルーは自分でよそう

カレーの具が少ないため、ダムがすぐに決壊した 盛りすぎでしょ

近所は大きな家が多い 帰りは雨 伊那の自宅に向かう



以上で「杉原千畝記念館」については終わり

翌日は、奈良の食品メーカーに寄ってから、舞鶴に向かう予定

目的は「舞鶴引揚記念館」、さらに足をのばして「敦賀ムゼウム」にも行く予定

勿論、キッチン付きホテルに泊まり、地元のスーパーマーケットを視察し買い物する予定

国内でも海外でもスタイルは変わらない

福井県 敦賀市

敦賀は「国際都市」であった

西舞鶴～東舞鶴～敦賀へ

西舞鶴から普通列車で東舞鶴で乗り換え、福井県敦賀市へと向かう

片道 2 時間、運賃は 1850 円



電車は、外から中は見えないが、中から外の景色は見える

しかしデジカメが撮れないのが難点

昔ながらの民家の風景



オバマ大統領で有名になった小浜

敦賀駅に到着

敦賀市の人口は約 65000 人

ここも過疎化が進んでいるが、観光に力を入れている



観光案内図

目的は「赤レンガ倉庫」と「敦賀ミュージウム」「日本海さかな街」

それに、地元のスーパーマーケット視察

周遊バス 1 日券 (500 円) を購入してバスに乗る

かつて、海軍の石油貯蔵倉庫として使われていた「赤レンガ倉庫」

国の「有形文化財」に指定されている



舞鶴の赤レンガ倉庫に比べれば規模は小さい

半分はレストラン、半分は敦賀の巨大ジオラマ

レストラン

客の多くは団体客



400 円を払い巨大ジオラマを見る

国際都市であった敦賀のジオラマ



照明が消され、敦賀の歴史をビデオで放映

朝、昼、晩と街の景色が変わる

道を挟んで反対側の「敦賀ムゼウム」

規模が小さく展示物も少ないが、貴重な情報が得られた

館内は撮影禁止



ここで確認した3つの歴史的事実

1. 敦賀はヨーロッパと日本との交通の拠点であった(1902年～1941年)

「欧亜国際連絡列車」とは

1902年 「敦賀」と「ウラジオストック」間に直通航路が開設された

1912年 シベリア鉄道を利用して、ヨーロッパの各都市を結ぶ拠点となる

東京(新橋)、敦賀(金ヶ崎駅)間に「欧亜国際連絡直通列車」が走った

当時、東京でパリ行きチケットが買えたらいい

ソ連からも観光客が訪れたという

敦賀～舞鶴間は日本海ではじめて蒸気機関車が走った



2. ポーランド孤児763人が敦賀港に上陸(1920年～22年)

1920年(大正9年) 日本赤十字の援助により、ウラジオストックから陸軍の輸送船「筑前丸」で、シベリアで家族を失ったポーランド人孤児が入港した

計6回に渡り、763人もの孤児が救われた

敦賀町は、宿泊、休憩所、食料などを提供した

ポーランド孤児については、「ポーランド見聞録」でも紹介したが、彼らが上陸した敦賀についてはここで知った

それにしても、孤児が763名ということは、1500名以上の両親が亡くなっていたことになる



3. ユダヤ難民約 6000 人が敦賀港に上陸(1940 年～41 年)

杉原千畝の「命のビザ」については何度も説明しているため省く

敦賀に上陸したユダヤ人と敦賀の人々のエピソードについて触れる

①「天国(ヘブン)に見えた敦賀の街」(ユダヤ人証言)

「山に雪がつもっていて、敦賀は悪夢から解放された楽園のようだった」

「人々は親切で自由に街を歩くことができた」

②「リンゴの少年」(市民の証言)

少年がリンゴとミカンを渡すと、1 個のリンゴを 1 口ほうばると、次々に後ろに回し分け合っていた」

③「銭湯を無料開放」

港近くにあった「朝日湯」がユダヤ人に銭湯を 1 日無料開放(ユダヤ人の証言)

「温かい湯は気持ちがよくて、本当にうれしかった」

④時計や貴金属を売りに来た

シベリア鉄道でソ連軍に現金や貴金属を没収され一文無しのユダヤ人もいた

地元の「渡辺時計店」は、時計や貴金属を買い取り、食料まで援助した

敦賀が「国際都市」で、市民は「国際人」あったという証拠

杉原千畝の精神がリレーされ、敦賀の人々に受け継がれた



お土産に記念のお菓子を買う

日本海おさかな街



観光客向けの魚市場と食堂 案内図



これだけの団体客が訪れる

中に入れば昭和の時代にタイムスリップ

ネットの書き込みには「高い」「ぼったくり」「しつこい」などとあるが、スーパーに比べ高いのは当たり前

「セルフサービス」と「対面販売」との違いだ



ズワイガニ？

どこの産地かわからない開きもの



貝類

生魚は殆ど見かけない

寿司屋では鮭の解体



名物の「焼きさば」

隣が食堂であるということで「焼きサバ定食」1200 円を注文



ノルウェー鯖に比べて脂は乗っていないが、フワッと美味しく焼いてある
生姜醤油で食べる

午後 3 時を過ぎると、一斉に「値引き」が始まる

「2 パック 1000 円」などの声が聞こえる

値引き販売は、数をさばくためバンドルが基本

スーパーマーケットはいつのまにか忘れてしまった

交渉して、700 円のかまぼこセットを 500 円で買う

得したのか、損したのか分からない



バスで敦賀駅まで戻り、歩いて「平和堂アルプラザ」に向かう
出身地が敦賀だけに、歩道には「銀河鉄道999」「宇宙戦艦ヤマト」のモニュメントが道沿いにく
つもある

敦賀駅近くの「アルプラザ(平和堂)」

平和堂概要(ホームページより)

業務内容 食料品、衣料品、住居関連等の総合小売業

所在地 滋賀県彦根市

連結営業利益 437,587(百万円) 平成 29 年 2 月期

福井 6 店舗、京都 19 店舗



食品売場は900坪ほどの大型店

郊外にはアピタもあるが、たぶん敦賀最大店舗

大型店だけに品揃えはいい

今回はローカルスーパーが中心であるため買い物はしなかった

朝 8 時ごろホテルを出て、ホテルについたのは夜 7 時過ぎ

暑くて疲れたが充実した日であった

8月6日は「広島に原爆」が投下された日

原爆により亡くなわれた方々に、哀悼の意を表するとともに、ご冥福をお祈り致します

世界で唯一原爆を投下された日本が、国連で採択された「核兵器禁止条約」の会議を欠席、棄権、署名しなかった事実

どこに気を使っているのか

情けない！

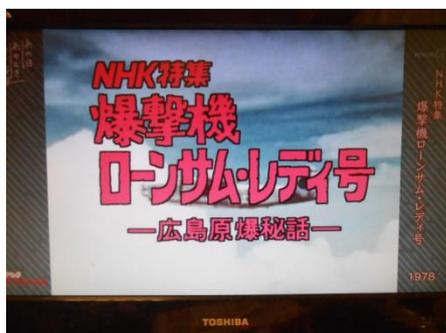
NHKで今日放送された「ローンサム・レディ号」

米爆撃機の乗組員が広島で撃墜され、落下傘で脱出した乗組員が捕虜になり、広島に留置所で被爆したというドキュメント

アメリカはそのことを30年以上も公表しなかった

生き残った乗組員の一人は、アメリカに帰り農業を行っている

その理由は、戦争で学んだ「農業が世界を救う」という強い信念からだ



さらに、NHKでは、「ドラマ東京裁判」を、2日間に渡って放送

ここでも、原爆投下についても議論された

感想はつきり言って

「見せしめ裁判」

その「見せしめ」により、第三次世界大戦が起らなかったことは評価できるかも知れない



NHKはよく特集を組んでいるが、民放はいつもと変わらず、お笑いとスポーツ、音楽情けない

民放はもう、歴史に向き合った報道番組、ドキュメンタリーやドラマを作る能力はすでにない

8月15日は「終戦記念日」

戦後 72 年目

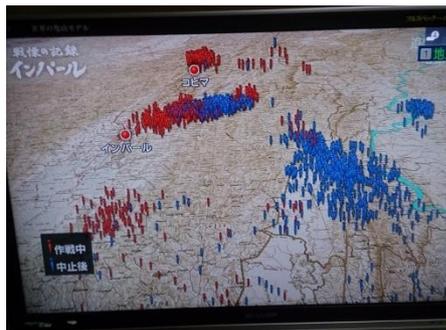
戦没者のために黙禱を捧げる

NHK スペシャル

「東京裁判」「知られざる地上戦 樺太」「インパール作戦」を見る

赤は作戦開始後の戦死者、青は作戦中止後の戦死者

殆どが栄養失調による餓死と病死



「731 部隊の真実」は新盆の手伝いで見ることはできなかった

日本は、多くの犠牲のもとに、72 年間も戦争をしなかった

「戦争の悲惨さ」を孫の世代まで伝えていかなくてはならない

戦争体験はないが、それを伝えてゆく義務がある

ヒトラーの遺言「100 年もすれば、すべて忘れ去られてしまう」

そうあってはならない

地元の戦跡 「旧陸軍伊那飛行場跡」を見に行く

今は畑や田んぼになっている



昭和 18 年 8 月から、沢 2 つを埋め立て太規模工事が開始され、学徒動員が行われた。

昭和 19 年 2 月、埼玉県「熊谷陸軍飛行学校」の「伊那分教所」が開設された。

昭和 20 年 2 月、戦闘機づくりの工場となった。

昭和 20 年 8 月、敗戦に伴い、米軍によって陸軍伊那飛行場は廃止された

・コンクリートの跡

第 2 格納庫の土台で、「市の戦争遺跡」として保存されている

70年前のコンクリート

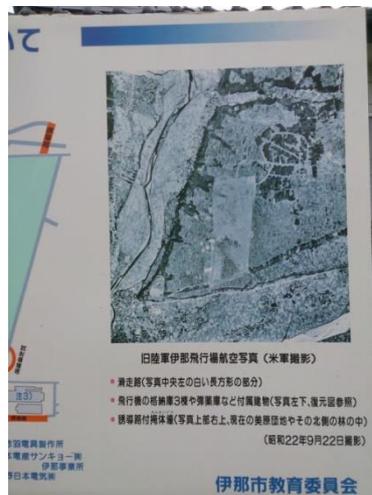


コンクリートに囲まれた施設
説明版



旧飛行場概要

- ・住所：伊那市六道原 標高650m～700m
南北約2km～2.5m 東西約0.6km～0.8km
総面積：160ha
- ・本部・兵舎・飛行機の格納庫・弾薬庫等建築物
- ・滑走路南北方向(芝植栽)幅80m 長さ1300m
- ・誘導路付掩体壕(飛行機を隠す施設)北の林になかに20か所
- ・格納庫のスケッチは、特別操縦見習士3期生「牧野一二氏」が描いたもの



旧陸軍伊那飛行場航空写真(米軍撮影)
 ・測定線(写真中央左の白い長方形の部分)
 ・飛行機の格納庫の棟や弾薬庫など付属建築物(写真左下、還元図参照)
 ・誘導路付掩体壕(写真上部分、現在の美原団地やその北側の林の中)
 (昭和22年9月22日撮影)

伊那市教育委員会

・旧陸軍伊那飛行場復元図

(軍属として勤務していた「白石光定」さんの協力で作成)

米軍の偵察飛行でも分からないよう、滑走路は芝が植えられていた

・米軍撮影の当時の「旧陸軍伊那飛行場航空写真」

写真中央の長方形部分が滑走路

・写真左下が、格納庫 3 棟や弾薬庫

・左上の林の中に、誘導路付き「掩体壕」

道を挟だ保育所



近くの公民館の開拓記念碑

昭和 21 年 12 月入植と書かれている

終戦後に旧飛行場を畑や田んぼに変えた



地元でも、こんな山奥に飛行場があったことを知らない人も多い

事実を知りそれを長く伝えていくことが必要